

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106084		
法人名	医療法人 青木内科小児科医院		
事業所名	グループホーム あいの里シルバーメイツ (2階)		
所在地	岡山市北区今5丁目3-25		
自己評価作成日	平成23年2月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成24年3月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・のびのびとした空間・家庭的な雰囲気の中で一人一人が安全で安心して過ごせる場所を提供している。利用者様ひとりひとりに合わせて自立に向けた支援をしている。(母体が医療法人・各専門職との連携・情報の共有・チームワーク作り) ・家族との連携や信頼関係を築き、地域とのつながりを大切にし、地域の中の一員として生活が送れるよう取り組んでいる ・サービスの質の向上にむけて全職員が正職員・有資格者であり、研修の充実をはじめ、「ケアは気づきである」をモットーにより良いケアを提供している
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が理念の把握を行っており、ケアプランを通し、少しでも近づけるように努力している。自分史を作成する事で、本人の過去の生活暦や思いを生かし、その人らしい生活が送れるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1回地域の公園の清掃に入居者・職員と共に参加している。地域の保育園児が来所して交流を持っている。運営推進会議にも多数の方が参加して下さったり、初詣・祭り等の行事にも参加している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者や相談者等はいつでも受け入れを行っている。又運営推進会議を通して、ホームの様子を包み隠す事無くお話している。散歩の時など地域の方とのコミュニケーションを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開き、地域の方や家族へ案内を送り参加を促している。会議では、ホームの現状を説明して、参加者の意見も取り入れる等、意見交換を行っている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	協力関係を築く様努めている。包括支援センターとの連携を密に行っている。又、毎回運営推進会議にも参加して頂きホームの現状を理解して頂いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を毎年ホーム内で行っている。マニュアルを作成して職員の意識を高める努力を行っている。転倒等の危険性のある方に対しては、カンファレンス等で話し合うと共に事故を振り返り再発防止に努めると共に、常にスタッフが目配りを行っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修をホーム内で行ったり、マニュアルを作成、定期的に見直すと共に、報道等にも関心を持ち、職員間で話し合いを行い、再度振り返る事で、虐待に関して再認識を行うと共に防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、運営推進会議時に、司法書士の方を招いて、講義をして頂いた。成年後見制度について学ぶ努力を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約の締結・解約に関しては時間をかけて詳しく説明を行い、理解をして頂いた上で、必ず署名・捺印を頂いている。又変更があった時等は、随時資料を配布すると共に、説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。又面会時や運営推進会議時を利用して出来るだけ意見や要望を出して頂くように努めている。カンファレンス時等を利用して職員に情報の共有を行い、運営に反映するよう努力している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	『気付き』を毎月全スタッフが出すようにして、話し合い、改善するように努めている。又年に2回個人の目標に対して面談を行い、職員の思いや意見を聞くようにしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートや、常時使用している手帳を半年に1回提出する事で職員個々の状況等を把握している。又資格取得の為に、研修等を法人全体で取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体が個々の質の向上を目指して、研修を行っている。個々に参加を促すと共に、勤務の調整を図り、積極的に研修に参加できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流を行い、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず面談をおこない、本人・家族の話を聞いている。又、スタッフ間での情報を共有し、信頼関係を築き、安心した生活を送って頂くように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ず面接を行い、家族の思いや困っている事を話して頂き、入居時のケアプランを作成している。又入居後はホームでの様子を頻りに伝える事で、安心して頂ける様に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態、家での様子等をゆっくりと聞き、アセスメントを行っている。必要に応じて法人内の専門職に相談して、アドバイスももらいながら行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の意見も積極的に取り入れ、一緒に行うように努めている。興味のある事や好きな事を尊重して個別の役割を見つけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会・クリスマス会等の行事を開催し、参加を促している。2ヶ月に1回個人の様子を手紙で郵送したり、面会時には現状の説明を行っている。又病状や日常生活に変化がみられたらその都度連絡を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族のご理解の下、面会に関しては、いつでもどなたでも来て頂ける様に声かけを行い、受け入れを行っている。毎年本人から家族や知人に年賀状や手紙を送っている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士が出来るだけ一緒に過ごせるように工夫している。歌や体操等状態の違う入居者同士でも行えるレクリエーションを提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も関係が途切れないように連絡を取っている。特に入院されている方には、面会に行き、様子を聞くようにしている。ご家族より相談がある時は随時相談にのるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族の思いや暮らし方等の希望を聞き、カンファレンスや記録で全スタッフで共有している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活歴や生活環境を把握するように努めると共に、カンファレンス等で情報の共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録・申し送りノート、カンファレンス時などに話し合い、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族の思いや希望を基本として、モニタリング・評価・介護計画の作成を担当者を中心に行い、ご家族や法人の他職種の方とも相談しながら介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子を記録。特に問題と思われれる事は、グラフや一覧表にして情報の共有・把握に努めている。又カンファレンス時に全職員で話し合い、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会・外出・外泊は24時間いつでも可能である。通院等は状況に応じて速やかに対応するように努めている。一応日課はあるが、本人に合った生活を送って頂けるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したりホームの行事に地域の方にも参加して頂いている。保育園児に隔月に来所してもらい、交流を図っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医の希望を伺い、希望に沿った対応を行っている。又、母体が医療法人なので定期的な受診や急変時は医師に連絡して適切な対応・往診を受けている。治療・検査に関しては家族と相談して納得の上行っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を結んでいる為、定期的にホームへ訪問して貰い、相談・助言・医師への連絡・確認をしてもらっている。又急変時等はいつでも連絡が取れるように成っており、随時、相談し適切な指示をもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は、ご家族や病院関係者との情報交換を行い、少しでも早期に退院出来るように、日常の関係づくりを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の説明を行い、同意を頂いている。又終末期には入られてからは、再度ご家族と話し合いを行い、協力・同意して頂いた上で、医師・看護師・訪問看護事業所とも連携しながら行っていく		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についてマニュアルを作成、随時見直しを行うのみではなく、定期的に法人やホーム内で研修を行っている。又応急手当や心肺蘇生法の実演研修を行い全職員が対応できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成、随時見直しを主としている。特に火災についてはシュミレーションや年2回入居者全員参加で避難訓練を行っている。又地域の方にも災害時の協力を依頼している。スプリンクラーの工事も行われている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報・プライバシー保護のマニュアルを作成して、毎年研修を行っている。個々の生活暦や性格をスタッフ間で共有した上で、本人に合った声掛けを行っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、個々に合わせて、出来るだけ自己決定を行って頂くように声かけを工夫している。自己決定が難しい方にも、コミュニケーションの中で、思いを引き出すように努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり意見を大切にすると共に、体調やその時の状態に合わせた生活を送っている。自己決定が難しい方が多い為、主な一日の流れは決めて居るが、無理強いせずに見守りや支援を行って一人ひとりが思うように生活している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔をモットーにし、本人の希望や趣味・好み等を考慮し、家族と連携をとりながら支援をしている。化粧を行いたい方へは化粧が行われる等、本人の希望に合わせている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ、調理・下膳・片付けを一緒に行って頂くように努めている。ホットプレートを使用した料理では、皆で輪になって話を行いながら調理を行っている。毎食スタッフと一緒に会話しながら食べている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指示の下、栄養士と相談して本人に合う形態や量を提供している。食事や水分量は毎食記録を行い摂取量の把握を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず全員口腔ケアを行うように徹底を行っている。義歯の方は週3回ポリドントを行い清潔保持に努めている。毎週1回歯科医師・衛生士の口腔ケアを受けて必要に応じて受診して治療を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用して間隔の空いている時はその都度声掛け、誘導を行っている。一人ひとりの排泄パターンを把握して随時誘導する事で、出来るだけトイレでの排泄に心掛けている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取をしっかりと行い、食物繊維の多い物を提供するようにしている。個別に寒天やセンナ茶を使用される方もおられる。散歩や体操等身体を動かす機会を増やすように心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間は一応決めているが、本人の希望に合わせて時間を調整している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中に散歩等身体を動かす機会を増やして、生活リズムを整えるように心掛けている。就寝時間や起床時間も本人に合わせて対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は、個人のカルテに記録し、目的・副作用・量を把握している。本人に合わせた形状にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	来る事や好きな事は出来るだけ、個別に行って頂き、役割を持って頂いている。必ず感謝の声掛けを行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	よく買い物や公園・神社へ散歩に出かけるようにしている。希望者は随時散歩に出かけて気分転換を図っている。又、法人の行事にも参加をしたり、行事で春と秋に遠足に出かけている。本人の行きたい所へは家族にも声掛けを行い協力を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金の所持はしていないが、一緒に買い物に行くようにしているので、好きな物を購入したり、お金を立て替えて支払う等の試みはしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は電話をかけたいと希望される方はおられないが、希望があれば、いつでもかけて頂くようにしている。字が書けない方も職員が代筆を行う事で、毎年ほぼ全員の方が年賀状や暑中見舞い等を出している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ電気等の明るさや、室内の温度・湿度の調節に心掛けている。壁には季節感を取り入れた壁画や写真を、入居者と一緒に作成して掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルは出来るだけ気の合う同士で座れるようにしている。ソファでは気の合う仲間同士でコミュニケーションを行う場や休息を行う場になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なかなか以前使っていた物を持って来られる事は無いが、ご家族の、思いのある物を持って来て頂いている。出来るだけご本人や家族と相談して、好きな物や好きな色の物を多く用いるようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室等が混乱しやすい方は、名札を付けるようにしている。歩行の悪い方は出来るだけ障害になる物を置かないように心掛けている。常に見守りを行うと共に、スタッフ間で情報を共有して安全に心掛けている		